

1・17 忘れない 1995年1月17日の西宮南高校

○ 阪神・淡路大震災から、24年を迎える平成31年1月17日、
本校では、放送部により、「1・17、忘れない ～阪神・淡路大震災の記憶と教訓を伝えよう～」の朗読と、黙祷を行い、改めて震災を振り返りました、今を生きる私たちが、教訓を次の世代に継承し、命の尊さを思い、しっかりと生き抜くこと、絆の強い人間関係、安全・安心に暮らせる社会を作り上げていくことの大切さを確認しました。

○ 1995年1月17日の西宮南高校

本校30周年記念誌に写真と共に、震度7の激震となった本校の状況が掲載されていました。また、当時本校にお勤めだった教員の記事がありました。ご紹介します。

【学校設備の被害状況】

グラウンド液状化

A棟・体育館渡り廊下接合部分亀裂

BC棟間2階渡り廊下つなぎ目に隙間

AB棟間1階通路大きな亀裂

校内敷地内のアスファルトひび割れ

自転車置き場壁面 破断

側溝割れ、給水管、排水管の水漏れ

1995年1月16日、生徒331名、教師16名の2学年修学旅行団は長野へと向かいました。予定通り宿舎に着き、次の日17日の朝、兵庫県南部地震のニュースをテレビで知りました。（中略）その日のうちにおうちと連絡がつかなかった生徒がクラスに数人でした。神戸に住まいを持つ引率教師もいます。（中略）引き返すしかないと覚悟していました。ようやく2日目の夜、直接・間接に全員の生徒及び引率教師の家族の無事が確かめられました。ありがたいことでした。（中略）

帰ってからすぐには学校を開くことが出来ませんでした。実は授業が出来るには、先生と生徒と学校環境が必要だったのです。水が水道から出ること、トイレが使えること、弁当が持つてこれること、これらができるようになったとき、私達はとてもありがたいと思いました。実は、有ることが難しかったことなのでした。

震災で、本校も大きな被害をうけたばかりか、修学旅行先で震災のニュースをきいた生徒や教員の不安は大変なものだったと思います。卒業アルバムの修学旅行の写真は、笑顔でいっぱいですが、改めて、震災の恐ろしさを感じました。そして、毎日いつものように起き、いつものように登校し、授業を受け、いつものように友達と語り、部活動をし、もどる家があり、家にもどるいつもの生活を送ることができるのが、どれほど大切なものか、感謝する日でもあってほしいと思います。

○ 1月14日 陸上競技部がボランティアとして参加しました。



鳴尾東小学校で行われた鳴尾東地域防災の日 震災メモリアルイベント「1・17をわすれない」ボランティアとして参加しました。
過去の災害に学び、災害に備えるため、私たちが、地域の備え、家庭の備え、ボランティア活動などについて、積極的に学びたいと思います。